

排水工事

21

5

埋戻し土

22

舗装工事

2

路盤

3

アスファルト舗装

・現場打ちの場合のコンクリート材料設計基準強度（N/mm2）18
スランブ（cm）15又は18
・現場打ちの場合の鉄筋種類の記号SD295
凍上抑制層に用いる材料
・（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う
・行わない

（21.2.1）

1

路床

路床の材料（22.2.2、3、5）(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示による
・凍上抑制層	・再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書表21.2.2による）	・図示による
・フィルター層	標準仕様書22.2.3.(3)による	・図示による

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験）
・行う
・行わない
・路床安定処理
安定処理の方法
・置き換え工法
・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料種類
普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（・特号・1号）
・消石灰（・特号・1号）
添加量
・kg/m3（CBR・3以上）
・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上
厚さ(mm)
・0.5～1.0
引張強さ
・98N/5cm（10kgf/5cm）以上
透水係数
・1.5×10⁻¹ cm/sec以上
試験
路床土の支持力比（CBR）試験
・行う
・行わない
路床締固め度の試験
・行う
・行わない
現場CBR試験
・行う
・行わない

2

路盤

路盤の厚さ
・図示による
路盤材料（標準仕様書表22.3.1による種別）
・クラッシュラン
・粒度調整砕石
再生クラッシュラン
・再生粒度調整砕石
・クラッシュラン鉄鋼スラグ
・粒度調整鉄鋼スラグ
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

（22.3.2、3）(表22.3.1)

3

アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ
図示による

（22.4.2～6）(表22.4.4)

材料
アスファルト
・再生アスファルト（標準仕様書表22.4.1による種別：
・60～80
・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材
加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13F)
・密粒度アスファルト混合物(13F)
舗装の平坦性
通行の支障となる水たまりを生じない程度
試験
アスファルト混合物等の抽出試験
・行う
・行わない

4

コンクリート舗装

コンクリート舗装の構成及び厚さ（22.5.2～4、6）(表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場 歩行者用通路	・図示による ・図示による	・70

材料
コンクリート
普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による
・以下による
コンクリートの種類（
設計基準強度（N/mm2）（
所定のスランブ（cm）（8
粗骨材の最大寸法（mm）（
早強ポルトランドセメント
・使用する
使用しない
注入目地材料
低弾性タイプ
・高弾性タイプ
目地
標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
・以下による
種類
間隔（
m）程度ごと
構造
・図示による
舗装の平坦性
通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

5

カラー舗装

・加熱系カラー舗装
構成・厚さ
・図示による
加熱系混合物の結合材
アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物
顔料の添加量（
％）
添加材
着色骨材（
）
自然石（
）
・常温系カラー舗装
工法
・ニート工法（配合その他：
）
・塗布工法（配合その他：
）
着色部の下部
・アスファルト舗装
・コンクリート舗装
・舗装の平坦性
通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

（22.6.2～4）

6

透水性アスファルト舗装

舗装の構成
・図示による

（22.7.2、3、6）

材料
骨材
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材（標準仕様書表22.4.1による種類：
・60～80
・80～100）
舗装の平坦性
著しい不陸がないもの
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
・行う
・行わない

7

ブロック系舗装

コンクリート平板舗装（22.8.2、3）

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N)	・300角	60	砂	表面加工
・透水性平板(P)	・	・	・モルタル	・研ぎ出し
・保水性平板(M)	・	・	・	・洗い出し ・たたき出し

クッション材
砂
・空練りモルタル
仕上り面の平坦性
歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
・

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
普通ブロック(N)	・車路	・図示による	・80	5.0	表面加工
透水性ブロック(M)	・	・	・	・	
保水性ブロック(M)	・歩行者用通路	・図示による	60	3.0	

クッション材
砂
・空練りモルタル
仕上り面の平坦性
歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内とする。
・

8

砂利敷き

舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ(mm)
・花こう岩	・割石 ・図示による	・	・	・コンクリート版 ・アスファルト混合物	70 70

クッション材
砂
・空練りモルタル
仕上り面の平坦性
歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。
・

・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上
厚さ(mm)
・0.5～1.0
引張強さ
・98N/5cm(10kgf/5cm)以上
透水係数
・1.5×10⁻¹ cm/sec以上
種類
A種（施工範囲：
・図示による
通路
建物周囲その他
）
B種（施工範囲：
・図示による

（22.9.2）

1

植栽地の確認

環境の水素イオン濃度指数（pH）試験
・行う
・行わない
電気伝導度（EC）の試験
・行う
・行わない

（23.1.3）

2

植栽基盤の整備

植栽基盤の整備
・適用する
・適用しない

（23.2.2、4）

植栽	工法	有効土層の厚さ(mm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 樹高100～120 樹高7m以上～12m未満 （80～100） 樹高3m以上～7m未満 （60～80） 樹高3m未満 （50～60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示による	・適用する ・適用しない
	芝、地被類	B種 20	・植栽部分 ・図示による	・適用する ・適用しない
	植栽基盤の排水設備 ・設ける（図示による） ・設けない			
	現場発生土の良質土 ・客土			

3

植込み用土

（23.2.3）

4

土壌改良材

（23.2.3）

種類及び指定量等
・パーク堆肥
施工箇所
植栽範囲
・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・50L
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
施工箇所
植栽範囲
・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・10L
・

5

樹木

（23.3.2）

6

支柱

（23.3.2、3）

支柱材
丸太（間伐材）
・真竹
防腐処理方法
加圧式防腐処理丸太材
形式
・図示による

7

幹巻き用材料

（23.3.2）

材料
幹巻き用テープ
・わら及びこも

8

芝

（23.4.2、3）

種類
コウライシバ
・ノシバ
芝張りの工法
平地
目地張り
・べた張り
法面
べた張り法面
・目地張り

9

吹付けは種

（23.4.2）

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
・洋芝類（採取後2年以内）	発芽率80％以上		
・	・		
・	・		

（23.4.2）

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	株立数
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

10

地被類

11

新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処理

新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の移植期間
引渡しの日から1年
・無し
移植樹木の枯損処理を行う期間
引渡しの日から1年
・無し

（23.3.4、6）(23.4.7)(23.5.5)

12

屋上緑化

植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ
・図示による
排水層
・軽量骨材（層の厚さ：
）
・板状成形品
植込み用土改良土
・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等
図示による
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
図示による
支柱
・設置する
・設置しない
形式
・図示による
・かん水装置
・設置する
・設置しない
種類
・図示による

（23.5.2～4）

1

一般事項

試料採取および測定は、厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法、測定方法」（以下「厚生省の測定方法」という。）の新築住宅の例に準じて行う。

（23.5.5.1）

2

測定対象化学物質

測定対象化学物質は、下記4 1）、2）の区分に従い、表のから
質及びTVOC又は表のから9物質及びTVOCとする。

（23.5.5.2）

3

測定方法

1）クロマトグラム上で「n-ヘキサン」から「n-ヘキサデカン」までに検出される物質のピーク値を「トルエン」に換算した値をTVOC度とする。
2）トルエン換算で2.0μg/m3未満のピークは測定の対象としない。
3）上位10ピークについて物質を特定して濃度の測定を行う。

（23.5.5.3）

4

測定する室

1）14物質及びTVOC濃度を測定する室等
・室名：
2）9物質及びTVOC濃度を測定する室
・室名：
・屋外(周囲の建物から離れた場所1か所)

（23.5.5.4）

5

測定結果等報告書の提出

次の事項を記載した報告書を2部提出する。
1）測定結果（アセトアルデヒドについては、試料採取時の気温がに満たない場合には、「厚生省の測定方法」に定める計算式で2湿度50％に、ホルムアルデヒドについては25％湿度50％に補正した濃度を報告すること。）
2）試料採取時の状況（気温・湿度(屋外、室内)、天候、風の状況、射進入状況、採取年月日・時間、窓の開閉状況、機械換気量、工完成から試料採取までの日数）
3）試料採取方法、測定方法、使用した測定機器
4）TVOC濃度の算出に使用したクロマトグラムの写し

（23.5.5.5）

6

その他

表の化学物質からの中のうち、いずれかの物質の濃度が室内濃度指針を超える場合は、工事的目的の引渡しを受けない。
TVOCの測定の結果、暫定目標値を超える場合は、発生原因の究明、汚染物質の発生を低減するための対策について、協議を行うこと。

（23.5.5.6）

備考

訂正

内容

TITLE
（仮称）グループホーム かがが 新築工事

SUBTITLE
—— 特記仕様書（ 1 0 ）

ア ー ト 建 築 設 計
（ A R T ）
長野県 小諸市 与良町 1 - 1 - 5

TEL (0267)23-8551
FAX (0267)23-8663

SCALE
1級建築士事務所
長野県知事登録（佐久）B第81221号

DATE
DRAWING NO
A - 1 0

1級建築士 第163952号
小林 雅博

INSPECT
DRAWING